

その27 [March②]

Dr.ひろみの

ハッピー子育てひろば



鈴木 裕美 (すすき ひろみ)

みなさん、こんにちは。3月と言えば卒業式ですね。末っ子の小学校の卒業式は、6年間という長さで最後という思いが相まって、特に感慨深かったですね。でもそれは小学生の親を卒業することに感慨深かったのだと思います。そして子どもが18歳になったとき。それは子育てからの卒業です。まだまだ心配ですが、とりあえず心配することから卒業し、気持ちよく子どもを手放しましょう。「大丈夫、私はいつでもここにいるよ」と笑っているだけで、子どもは安心して頑張れます。それって、公園のベンチに座っているあなたを子どもが見て安心し、走り回っていた姿と重なりませんか？

今回は
「待つこと」は積極的
な子どもへの関わり

です。



講演会で頂いた感想の中に、「話を聞いてやってみようと思ったけど、その後が続かない」「分かっているけど、できない」という意見が多くありましたが、そういうものです！こうすればいいと分かっているけど、できないのが人間です。大人がそうなんだから、子どもにとってはもっと難しいということです。40年ほど生きてきた人間ができないのに、10年も生きていない人間ができるわけがないのです。



気長に待ちましょう



大人が時速 60 km で走っているとしたら、子どもは時速 10 km です。早送りの世界の住人（大人）からすると、子どもはスローモーションの住人。時間の流れが違う（脳の機能が未熟）と理解できれば、イライラも無駄なことだと分かります。人から言われたことを理解するのも、それを行動に移すことも時間がかかるのですから、「早くしなさい」は最高難度の命令です。

「なんでできないの？」「まだまだダメ！」なんて、子どもに対しても、自分に対しても言わないで、「できるまで」、「習慣になるまで」、「当たり前になるまで」、気長に待ちませんか？

1割できれば、良し 3割できれば、優秀です。



大人の社会ではなんでも早く、効率的に行うことが仕事のできる人と認識されるからか、私たちの口癖は「早くしなさい」ですね。

でも、ゆっくり待ってもらえない子どもは、自分の成長もゆっくり待つことができません。すぐできないと諦める。すぐに結果が出ないと腹を立て、我慢することができません。親が早くできないと我慢できないのだから、子どもも我慢できなくて当然ですよ。

親から信じて待ってもらえる経験は、自分を信じて頑張る力を育てます。待つことは積極的な子どもへの関わりです。押しずに待つことは自分自身との闘いですね。

あなたも、あなたのお子さんも、あなたを支える人たちも、みんな精一杯やっています。

忙しい時間を割いて、子育てひろばを読んでくれてありがとうございました。

私はみなさんを心から応援しています。

